

## はじめに

開倫塾

塾長 林明夫

## 「論語講義」

Q1：この論語講義のねらいは何ですか。

A：(1)論語の代表的な文章を中心に、参考文献を用いて「論語」の内容の基本的な理解を目指します。説明は参考文献、大半は(1)と(2)に依りますので、全文の内容の理解は参考文献の特に(1)と(2)を用いて行うことを希望します。

(2)参考文献に従って論語に親しみ、毎日の生活や自分の人生を振り返る大切な古典として論語を活用するきっかけをつくって頂くことを目的といたします。

Q2：この論語講義の参考文献は何ですか。

A：以下の文献です。

(1)須永美知夫著『論語抄』史跡足利学校事務所、1993年3月25日刊

(2) { 吉田賢抗著『論語』新釈漢文大系1、明治書院 1960年5月25日刊  
吉田賢抗著『論語』新書漢文大系1、明治書院 1996年6月18日刊

(3)金谷治訳注『論語』岩波文庫、岩波書店 1999年11月16日発行

(4)貝塚茂樹訳注『論語』中公文庫、中央公論新社 1973年7月10日刊

(5)吉川幸次郎著『論語上・下』朝日選書、朝日新聞出版 1996年10月25日刊

(6)吉川幸次郎著『論語の話』ちくま学芸文庫、筑摩書房 2008年1月10日刊

(7)岬龍一郎著『超訳論語 自分を磨く200の言葉』PHP文庫、PHP研究所 2009年6月17日刊

(8)加地伸行著「論語、全訳注、増補版」講談社学術文庫 2009年9月10日刊。

各章の(1)の説明は参考文献(1)からの、(2)の説明は参考文献(2)からの引用です。

Q3：論語はどのように学べばよいとお考えですか。

A：(1)少し大きめの書店に行き、論語全文が収録されている本をまずは一冊入手することをお勧めします。

(2)本文や書き下し文、現代語訳などで、毎日、もしくは時々折に触れてゆっくり読む。そして一章、一章意味を「ああ、これはこういうことなのか」と自分の力で「理解」することをお勧めします。

(3)新しい章に取り組み前に、今まで自分の力で学んだところまでを声を出して音読すると、論語が少しずつ身につくと考えます。

(4)少し論語に親しみ慣れてきたら、なぜ孔子はこのようなことを伝えたのだろうかとお考えになることをお勧めします。孔子の一生を調べたり、孔子の弟子たちの様子を調べていくと、孔子が弟子や相手によって各々にふさわしい個別的な指導をしていることがわかってきます。

(5)自分の生活や人生を振り返ったり、今後の生活や人生をどうするかを考えたりするときに論語はとても参考になりますので、お気に入りの章は繰り返し音読し書き写すことをお勧めします。

(6)時間があったら、日本で論語を研究・普及させたゆかりの地である足利学校や湯島昌平坂を訪問したり、孔子のゆかりの地である曲阜を訪問することも、孔子や論語の理解を深め趣深いと思います。

(7)まずは、テキストを一冊決めて論語を読み込みましょう。